

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

イモリ～深まる興味～／みなみ若葉幼稚園

子どもたちの興味・関心をどのように大切にしていますか？

この事例では、生き物好きの子どもたちの興味・関心を周囲の友達や保育者が大切に受け止め、一緒に調べたり考えたりしています。子どもたちには、一緒に生き物を探したり育てたりする仲間がいることで、さらに興味を広げたり深めたりなど、「科学する心」が育まれていくことが期待できます。



『アカハライモリ』っていうんだ！！／5歳児

- 幼稚園のプールの側で保育者がイモリを見つけて捕まえ、子どもたちに見せた。Aちゃんたちは、すぐに興味をもって、よく観ていた。
Aちゃん：「トカゲ？なんだ？」
Bちゃん：「図鑑で調べてみよう！」
Aちゃん：「あっ！これだ！」と、トカゲのページを見付ける。
Bちゃん：「本当だ！！」
Aちゃん：「（図鑑に記載されているトカゲの背中側の画像を見ながら）“せなかがわ”？こんな名前じゃないな」



この日は、名前が分からず、他のページに載っていたことにも気が付かなかった。

- 次の日、お家の人に聞いて、「イモリ」と分かった。
- 図鑑を見ながら、
Aちゃん：「カエルの仲間だ！カエルの足みたいだから」
Bちゃん：「ぼくもそう思う！」
Aちゃん：「水の中に入っているから水の生き物なんだね！」
Bちゃん：「枯れ葉も入れた方がいいんだ！」
Aちゃん：「水は水道水じゃだめだよ！水道水は、薬が入っているから！」
保育者：「どうしてそう思うの？」
Aちゃん：「ママが言ってた！」
保育者：「じゃあ、どこの水ならいいかな？」
Aちゃん：「川の水！！」
Bちゃん：「これは、レバーとかを食べると思う！テレビでやってた！」
Aちゃん：「虫も食べると思うよ！」
Bちゃん：「そうそう！虫とりに行こう！お家を作ってあげよう！」
Aちゃん：「そうだね！」



- 戸外にある自然物を採取してイモリのお家作りが始まる。他の友達を誘い、イモリの食べそうな虫を探す。水は、川の水を汲んで、少しだけ入れることにした。
Aちゃんは「一緒にやってくれてありがとう。助かった！」と、友達に言う。

✦ 保育者の読み取り

考えや意見、自分の中にある知識が驚くほど次々と出てきた。川の水を汲むところは援助したが、あとは子どもたちに任せて見守り、子どもと展開を楽しむようにした。

友達に感謝する言葉が言えるようになったことは、自分の気持ちが満足しているからだ。

- 「チョウチョやカエルは食べない！」という意見が出て、バッタ4匹、イナゴ3匹を虫カゴに入れてみることにした。次の日、一番小さいバッタだけがなくなっていた。「小さい方が食べるんだ！」と小さい虫を探すが、なかなかいない。Bちゃんは「まだ、小さい虫は弱いから隠れている！」と言い、草をかき分けるように探し始めた
- バッタやイナゴをその後食わず、「ミミズを食べるんじゃない？」と、今まで関わっていなかったCちゃんの発言で、ミミズ探しを始めた。Bちゃん「ミミズは柔らかい土のところにいる！硬いと出てこられないから！」と言う。ミミズを見付け、あげてみると…
- Aちゃんが、「わぁー食べた！本当にミミズ食べるんだー！でも、ミミズは陸の生き物なのになー」とイモリの飼育ケースを見ながら言う。
- その後、Bちゃんがテレビで観て「アカハライモリ」っていうんだとみんなに教えていた。
- 図鑑に『雄と雌』の見分け方が載っていた。イモリの体をよく観て図鑑と比べて、このイモリは『雌』だと分かった。Bちゃんが「クラスみんなでイモリの名前を付けたい」と言い、みんなで相談し、「アカハラちゃん」と名付けた。



✦ その後

- 飼育を継続している。
- 子どもたちの興味は、水の生き物に広がる。川の水が流れ込む自然園の池にオタマジャクシがいることを発見し、「なんで今？」と不思議に思うことから、水の生き物に興味移っている。また幼稚園に隣接の用水路畔で「タニシ」「メダカ」「ドジョウ」を捕まえている。



✦ 保育者の願い

- 水の生き物に関しても、みんなを巻き込みたくさん意見を交換して友達と関わり、さらに意欲・態度を育んで欲しい。

✦ 考察

- “虫”好きで知識が豊富な子どもの存在がクラスみんなを巻き込み、生き物に対する興味・関心を高めていった。自分のやりたいこと、疑問に感じたこと、知りたい、調べたい、試したいと思ったことに意欲的に取り組んでいる。友達と意見を交換することで、子どもたち同士でいろいろな経験をし、興味を深め、それに伴って、知識や考えを深めていけたのではないかと感じた。
- 友達に優しい言葉や態度を素直に表せなかった子どもが、自分のやりたいことに、とことん取り組み満足感を得られたことで友達への優しい言葉や感謝の言葉を自然と発することができるようになった。子どもたちの心が満たされ、満足して遊べるような環境・時間の積み重ねが意欲と共に、心の成長に大きな糧になると実感した。